

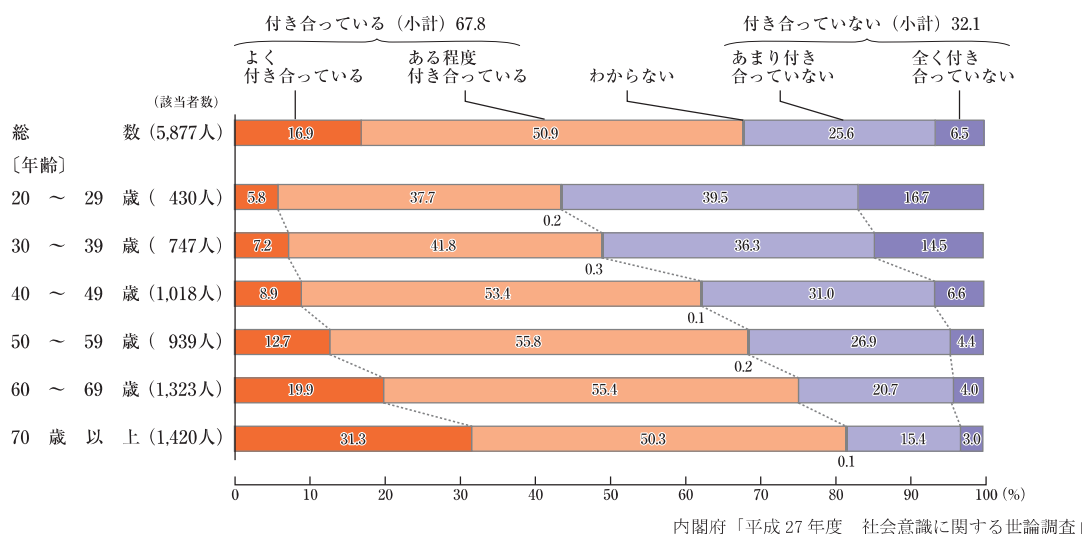
「地域元気プログラム」について

1 「地域元気プログラム」とは

「地域元気プログラム」は、地域課題の解決をとおして住民同士のつながりをつくるプログラムです。

地域の人々との付き合いが疎遠になり、地域コミュニティの衰退が指摘されるとともに、高齢者や困難を抱えた親子などが地域で孤立するという状況も見られています。平成 27 年度の内閣府「社会意識に関する世論調査」では、地域での付き合いの程度に関して 67.8%が「付き合っている」、32.1%が「付き合っていない」と答えています。そして、20 代では「付き合っていない」との回答が 56.2%に達しています。

地域での付き合いの程度



このような状況の中で、地域コミュニティの活性化を図るためには、地域での活動をおして人と人との交流を促進していくような、「地域づくり」の視点からの取組が必要です。そのためには、誰もが関心を持っているものや、誰もが解決していかなければいけないと感じている事項をテーマとして取り上げ、多くの住民が参加する地域での取組を行っていくことが効果的です。

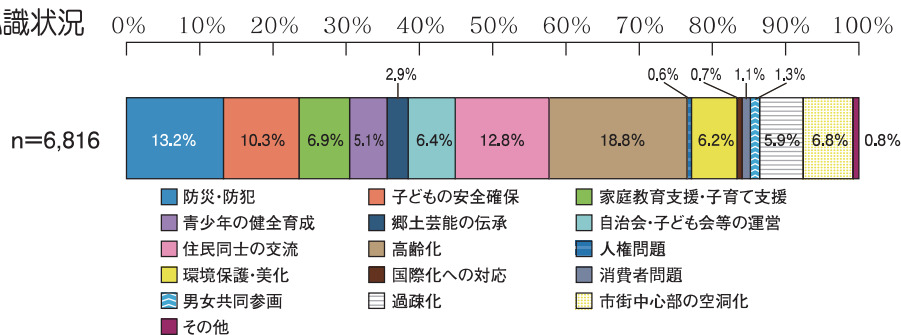
それでは、多くの住民が参加してくれるようなテーマには、どのようなものがあるのでしょうか？それぞれの地域には、地域の歴史や文化、生活状況等に伴う地域の課題があります。地域に生活する住民にとっては、この「地域課題」が最も共通した事項であるといえます。

そのような意味から、地域課題の解決をテーマとした学習機会や交流機会には、他の事項に比べて多くの住民が参加することが期待され、地域活動を考える上でのポイントとなります。

そして、地域課題の解決のための学びや交流の機会を通じて、住民同士の交流が促進されるとともに、地域に対する愛着や誇りが育まれ、地域コミュニティの活性化につながっていくことが期待されます。

それでは、本県の地域課題はどのような状況なのでしょうか。次の図は本県の地域課題の認識状況を調査したものです。

地域課題の認識状況



栃木県総合教育センター「地域課題に関する意識・行動調査/地域課題に関する取組状況調査(平成24年度)」

これは県全体の状況ですが、「高齢化」や「防災・防犯」、「住民同士の交流」等が上位となっている一方、「人権問題」や「男女共同参画」などの重要な課題については、県民の地域課題としての認識はあまり高くない状況です。この地域課題は、地域によって固有の傾向を示すとともに、時間の経過や状況が変われば変化していく傾向があります。また、住民間で明確に認識されているものあれば、潜在化しているものもあります。それぞれの地域で、住民同士で話し合いながら顕在化していくとともに、共通認識を図っていくことが大切です。そのプロセスこそが、「地域づくり」の第1歩となるのです。

2 「地域元気プログラム」の構成

「地域元気プログラム」をとおして学ぶことができること。

「地域課題を解決しましょう!」、「地域みんなで取り組みましょう!」といっても、住民の皆さんは簡単には参加してくれません。そこで、住民の皆さんには、自分たちの地域の課題は何なのか、その課題はどのようなものか、そして解決していくためには何をすべきなのかということ、体験的に楽しく学ぶことができる機会を作っていく必要があります。

そこで、この「地域元気プログラム」は、住民の皆さんが興味関心を示してくれるよう、参加型のプログラムで構成し、参加者同士の交流を通して主体的な学びを促す内容としました。また、講座等の企画者が住民に学んでもらいたいことを系統的に捉え、住民の状況に応じた効果的な学習が展開できるよう、学習の内容を「地域課題についての『知識』」、「解決のための取組を行うための『技術』」、「具体的な実践につなげるための『行動』」の3つの視点で設定し整理しています。

視点	内容	プログラム	番号
知識	子どもを地域や社会全体で育てることの意義を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代への理解 親が子育てしやすい地域像 育てたい地域の子ども像 	①、②、③、④、⑤
技術	子育て家庭支援の基礎となる地域の役割について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 親を支える地域の役割 地域の大人ができること 目指したい地域の大人像 	⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪
行動	子育てや地域活動における課題について考える	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに優しい地域をつくるために 子どもの豊かな心を育む地域をつくるために 子どもたちにとってかけがえのない地域をつくるために 	⑫、⑬、⑭、⑮、⑯

また、県内の公民館等においては、「家庭教育支援」に関する学級や講座等が数多く開催されていることから、本プログラムは地域課題として「家庭教育支援」を取り上げ、地域全体で子育て中の親を支援する取組を通じて、地域住民同士の交流を促し「地域づくり」を目指した内容といたしました。

ただし、公民館講座の「家庭教育学級」はもちろんのこと、プログラムの選択により「まちづくり講座」や「女性セミナー」、「高齢者学級」等での実施も想定されます。学級や講座における住民の学びを「地域づくり」につなげていきたいといった場面での活用を検討してみたいでしょうか。

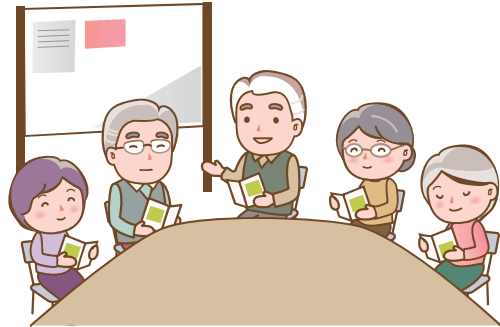
3 標準的な使い方

「地域元気プログラム」は、ファシリテーター（促進役）が進める参加型の学習プログラムです。

「地域元気プログラム」は、講師などの話を聞くだけではなく、参加者同士が身近なエピソードやワークを通して話し合い、交流しながら地域課題解決について主体的に学ぶ、参加型の学習プログラムです。

(1) 本テキストにおける「参加型学習」について

各プログラムでは、4～6人のグループになり、ディスカッションやラベルワークなどのワークを行います。話し合いを進めていく中で、地域課題を主体的に解決していくことについて考えたり整理をしたりすることをねらいとしています。



(2) 「ファシリテーター」について

参加型学習では、プログラムを進行していく人を「ファシリテーター」と呼びます。参加者の学習の目標を達成することをサポートします。

ファシリテーターのすべきこと



- 参加者一人ひとりを尊重し、安心して参加できるように促すこと
- 一人ひとりの発言に耳を傾け、プログラムの進行に生かすこと
- 全ての人が参加できるように配慮すること
- プログラムの進め方やファシリテーターの範囲を超えた問題について相談できる人を探しておくこと

ファシリテーターがしてはいけないこと



- ×参加者に発言を強要したり、故意に一部の人だけの意見を聞いたりすること
- ×参加者の発言を批評したり、自分の意見を押しついたりすること
- ×プログラムの中で知った参加者個人の情報を他の人にもらすこと

(3) 「世代」について

このテキストでは、「子育て前世代」「子育て世代」「見守り世代」という言葉を用いて、各プログラムの対象となる世代を表しています。このテキストでの定義は次のとおりです。

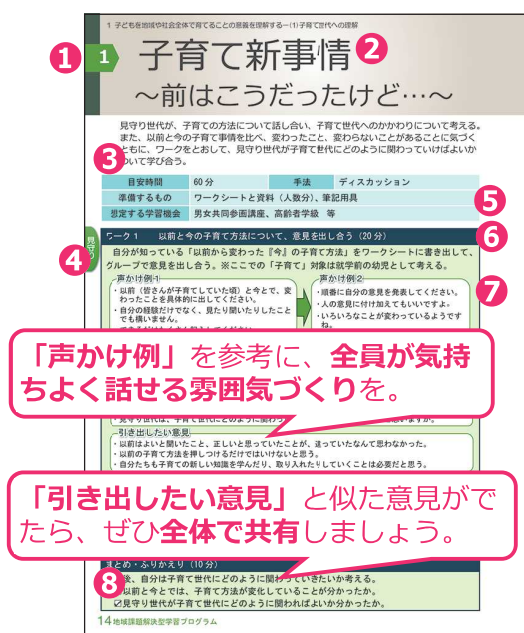
世代区分	定義
子育て前世代	子育ての経験がなく、子育て家庭への関わりが少ない世代
子育て世代	現在子育て中の世代
見守り世代	子育ての経験があるか、子育て家庭への関わりが多い世代

(4) テキストの使い方について

- ①このテキストでは、ファシリテーター用のページ（左）と、学習者用のページ（右）を分けてまとめています。
- ②ファシリテーター用のページは、展開の流れや、押さえておきたいポイントなどが書かれていますので、参考ページとあわせて事前に確認してください。
- ③学習者用のページはワークシートになっており、そのままコピーしてお使いいただけます。

■ファシリテーター用ページ（左）

ファシリテーターは、このページに書かれている内容に沿ってプログラムを進めます。



「声かけ例」を参考に、全員が気持ちよく話せる雰囲気づくりを。

「引き出したい意見」と似た意見がでたら、ぜひ全体で共有しましょう。

⑧まとめ・ふりかえりのポイント
プログラムごとの「ねらい」を達成できたか、全体をふりかえって確認します。

①プログラム番号、②タイトル

③プログラムのねらい

何をテーマに、どんなことについて考え、これからどうありたいか等についての説明です。

④プログラムの対象となる世代

⑤目安時間、手法、準備するもの、想定する学習機会

目安となる時間、主な手法、必要な準備物などが書かれています。時間は状況に応じてアレンジ可能です。「想定する学習機会」にあるような場面の他、多様な場面で活用していただけます。

⑥ワークの内容

それぞれのワークの内容を示しています。

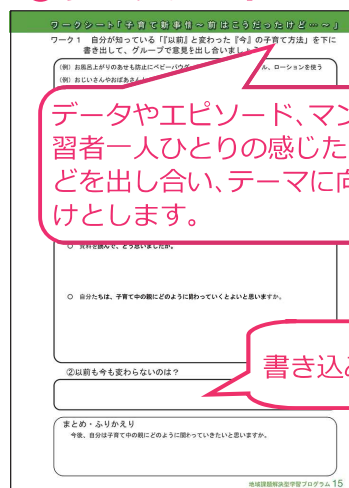
⑦ワークを進める上での留意点など

各ワークを進める上で必要な配慮について書かれています。「声かけ例」などを参考に、学習者全体にわかりやすく伝えましょう。

■参加者用ページ（右）

必要数をコピーして参加者に配布します。参加者は、ワークシートに記入しながら話し合います。

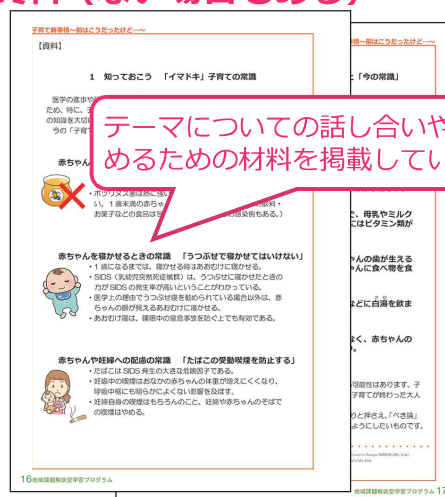
①ワークシート



データやエピソード、マンガなどから学習者一人ひとりの感じたことや経験などを出し合い、テーマに向き合うきっかけとします。

書き込みができます。

②資料（ない場合もある）



テーマについての話し合いや、学びを深めるための材料を掲載しています。

■その他のページ

参考資料

ファシリテーター向けのページです。プログラムでは使用しませんが、ファシリテートを行う上で、各プログラムをより深く理解するのに役立つ資料です。プログラムの組み立ての参考にしてください。

コラム

ファシリテーター、参加者の両方に向けたページです。標準的なプログラム進行では使用しませんが、時間があるときや、より発展的な内容にしたい時などに活用してください。

アイスブレイク集

参加者の緊張や場の雰囲気なごやかにするために、ワークの前に行うアクティビティが「アイスブレイク」です。メインの活動への導入やグループ分けとして行うこともあります。様々なアイスブレイクを目的ごとに分類して掲載していますので、参加者の状況等に応じて活用してください。

4 「地域元気プログラム」の進め方

「地域元気プログラム」では、参加者が話し合いなどのワークをとおして学びます。

●標準的なプログラムの流れ（90分の場合）

時間	展開	展開のポイント・留意点
5～10分	導入	・「地域元気プログラム」についての説明をする ・行うプログラムのねらいを確認する ・参加するにあたり心がけること（3つの約束）を確認する
30～70分	ワーク	・エピソードやデータ、写真などをもとに、個人やグループでワークを行う ・話し合いやロールプレイなど内容は様々である
10～25分	ふりかえり	・参加者自身の気づきや、他の参加者の意見を聞き、学習の整理、共有の場とする

※アイスブレイクやグループ分けアクティビティ等は、導入の前後に行いましょう。

「地域元気プログラム」では、グループでの話し合いが中心になります。参加者が楽しく学べるよう、次のこと（3つの約束）を心がけましょう。

●3つの約束

尊重 ▶ 参加者が互いの考えや感じ方を尊重しよう

- 相手の意見に耳を傾けましょう。自分の気持ちにも耳を傾けてみましょう。
- 一人で話しすぎないようにしましょう。（時間の平等）
- 発言は強制ではありません。聞いているだけでも十分参加していることになります。

参加 ▶ プログラムに積極的に参加しよう

- 参加者全員で作っていく学習プログラムです。参加者一人ひとりが、積極的に参加するよう心がけましょう。

守秘 ▶ プログラムで知った参加者個人の情報は持ち帰らない

- 学習プログラムという同じ機会を共有した参加者同士だから、安心して話げできたのです。そこで知った参加者個人の情報はその場において帰ることにして、他の人に話したりしないようにしましょう。

5 プログラムを進めるために

○プログラムの実施に必要なスタッフ

スタッフが参加型学習のファシリテートに慣れている場合は、企画や運営、ファシリテーターを一人で行うこともできます。よりスムーズな進行を考えると、複数のファシリテーターで行うか、進行の補助者（受付、資料の準備、学習者の質問の受付など）がいるとよいでしょう。

○プログラムの選定

各プログラムには対象としている世代がありますので、実際の参加者の状況をよく確認して、プログラムを選ぶようにしてください。

○各プログラムの進め方

各プログラムで示す展開の流れは、モデルケースとして想定した標準的なものですので、実際にプログラムを行う時は、学習者の人数、使用する場面や時間、場所等の様々な状況や要素にあわせて展開の仕方を工夫してください。

○学習の形態

テキストには、各プログラムのワークなどが効果的に行えるグループの人数を設定しています。あらかじめグループ分けをしておくことも考えられますし、アイスブレイクを行う中でグループを編成することも可能です。また、グループに意図を持たせたい場合もあるでしょう。参加者の状況、学習のねらい等に応じて編成しましょう。

○ワークシートや資料の使用方法

このテキストに掲載しているワークシートや資料等は、そのままコピーして使用できます。プログラムによっては、切り離して配布するものもありますので、ファシリテーター用ページの「準備するもの」に書かれている内容をよく確認してください。

また、ワークによっては、ワークシートには記入せずに、ふせん紙や模造紙を使って意見をまとめていくものもあります。

6 「地域元気プログラム」の活用にあたって

「地域元気プログラム」は、地域課題解決のために必要な力の習得を目指したものです。

本プログラムは、受講者の状況に応じた内容を選択し実施することで、それぞれの視点に関する内容を学習することができます。また、いくつかのプログラムを組み合わせることで（P10～11参照）、「知識」→「技術」→「行動」といった、具体的な実践活動につながるような学習内容を設定することもできます。

また、プログラムの前に基盤となる知識を習得するための「講演」を実施したり、プログラムを実施した後に地域での「フィールドワーク」を行って体験的な活動を行ったりするなど、それぞれの状況に応じた工夫を行うことで、一層の学習効果の向上が期待されます。





一方、本プログラムは地域住民が協働して地域課題解決するのに必要な力（知識や技術）の習得を目指したものであり、プログラムを通して得られる知識や技術は「家庭教育支援」の課題解決だけでなく、他の課題においても企画者の工夫によって対応できるものであると考えます。発展的な使用方法として、「家庭教育支援」の課題を、「高齢化」や「住民同士の交流」、「防災・防犯」等々の他の課題に置き換えてプログラムの内容を検討し修正することで、他の地域課題に対応したプログラムとすることが可能です。

公民館の学級・講座や地域での学習機会に、それぞれの地域の課題を取り上げながら、本プログラムをベースとしたプログラムを作成し、地域課題解決をとおした「地域づくり」を目指していきましょう。

○活用の提案

「地域元気プログラム」は、人が集まる場所ならどこでも行うことができます。また、講演会のあとに意見交換として本プログラムを行ったり、各プログラムを組み合わせて連続講座として企画したりすることもできます。オリジナル講座の企画にぜひ活用してください。

提案1 地域づくりについて考えるシリーズ講座例

【知識】④ご近所の子どものこと、知っていますか？



【技術】⑥地域の子ども、みんなの子ども～地域でできる子育て世代の支援～



【行動】⑮“ふるさと”への想い～世界へ羽ばたく子どもたちへ～

提案2 男女共同参画について考えるシリーズ講座例

【知識】②え？それってあなたの仕事？



【技術】⑨ファミレスで～あなたに関係ないでしょ！～



【行動】⑫わたしの子育てアクションプラン

提案3 家庭教育支援について考えるシリーズ講座例

【知識】③親こそ支えが必要？～今の親の悩みとは～



【技術】⑦今のままでダイジだよ～子育ての悩み、あなたならどう声かけしますか～



【行動】⑬地域ぐるみでみんなで子育て

提案4 青少年育成指導者のためのシリーズ講座例

【知識】⑤BEST3を決定！？うちの地域の子どもは、こんな人に育ってほしい



【技術】⑩気になる子どもを見かけたとき、あなたならどうしますか？ I



【行動】⑯子どもの笑顔・未来を応援し隊

提案5 いじめ防止について考える講演会での活用例

【知識、技術】 著名人などによる講話

【行動】 ⑭育てたい子どもの「心」大切にしたい大人の関わり

提案6 インターネットやスマートフォンに関する問題について考える講演会での活用例

【知識、技術】 著名人などによる講話

【行動】 ⑧考えてみよう！インターネットとスマホの光と影

提案7 会合やサークルなどにおける勉強会での活用例

【知識】 ①子育て新事情～前はこうだったけど…～

【技術】 ⑩気になる子どもを見かけたとき、あなたならどうしますか？Ⅱ
(連続シリーズではなく、参加者の状況やテーマにあわせてどちらかを行う。)**○活用に関する相談窓口**

参加型学習プログラムを活用した企画の立案や進め方など、「地域元気プログラム」の実施についておたずねになりたいときには、下記の連絡先へお問い合わせください。

所属名	主な地域	連絡先
河内教育事務所	宇都宮市、上三川町	ふれあい学習課 ☎028-626-3183
上都賀教育事務所	鹿沼市、日光市	ふれあい学習課 ☎0289-62-7167
芳賀教育事務所	真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町	ふれあい学習課 ☎0285-82-3324
下都賀教育事務所	壬生町、野木町、小山市、栃木市、下野市	ふれあい学習課 ☎0282-23-3422
塩谷南那須教育事務所	矢板市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那珂川町	ふれあい学習課 ☎0287-43-0176
那須教育事務所	大田原市、那須町、那須塩原市	ふれあい学習課 ☎0287-23-2177
安足教育事務所	佐野市、足利市	ふれあい学習課 ☎0283-23-1471
総合教育センター	県内全域	生涯学習部 ☎028-665-7206

冊子のデータなどのダウンロードができます。ぜひ一度ご覧ください。

【栃木県ホームページ】

とちぎの家庭教育支援

検索

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m06/education/shougai/suishinjigyou/katei.html>